

川崎市立 日本民家園

日本民家園だより 46号 平成12年12月1日 編集・発行 川崎市立日本民家園



民俗芸能舞台公演「みのりの秋に獅子が舞う」
—菅の獅子舞—

民俗芸能公演

秋の生田緑地の自然が美しい季節にあわせて、民家園では伝統文化に親しんでいただくいろいろな催し物を実施しました。9月24日と11月3日には伝統芸能公演をおこないました。

毎年10月・11月は、日本民家園まつりの期間として園内でいろいろな行事が開催されています。今年の第19回日本民家園まつりでも園内の古民家を活用して民俗芸能や伝統文化を紹介する催し物を実施しました。

今年は週末に雨が降ることが多かったのですが、天候に恵まれなかったわりには多くのお客様が来園されました。

秋の催し物から9月24日と民家園まつりの期間中の11月3日に実施した民俗芸能公演についての報告をいたします。

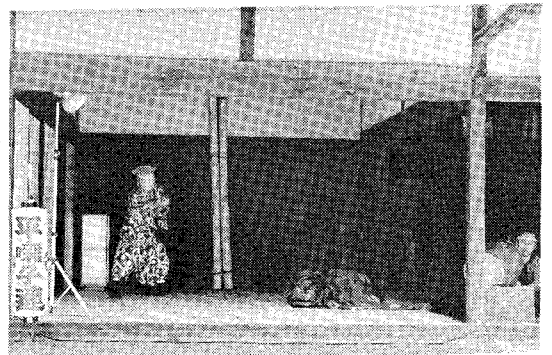
民俗芸能公演 (9月24日)

たいらばやし 平囃子

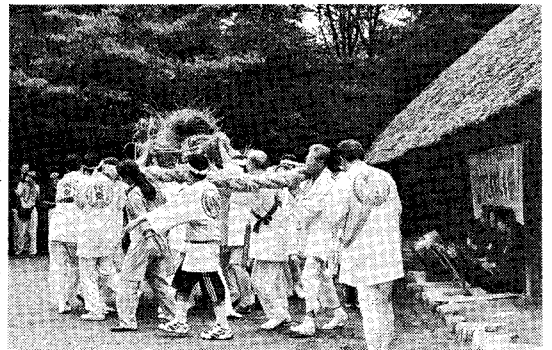
民家園とは山をはさんですぐ近くの宮前区平に伝えられている祭囃子で悪魔払いの獅子舞や娯楽性に富んだ舞などがあります。佐々木家の座敷を舞台として囃子にあわせて獅子舞やおかめひょっとこの舞がおこなわれました。

じゃか 蛇も蚊も

横浜市鶴見区生麦^{なまむぎ}に伝わるお祭で、萱^{かや}でつくった大きな蛇を担いで家々をめぐり、厄払いや雨乞いを祈りました。本来は、萱の蛇が家の中を通り抜けていたのが、今では現地でも玄関に首を入れるだけになっていますが、民家園では、萱の蛇が大戸口から裏口へと民家の中を通り抜ける姿を再現することができました。また、広瀬家の庭では2頭の蛇による迫力あるからみもおこなわれました。



平囃子



蛇も蚊も

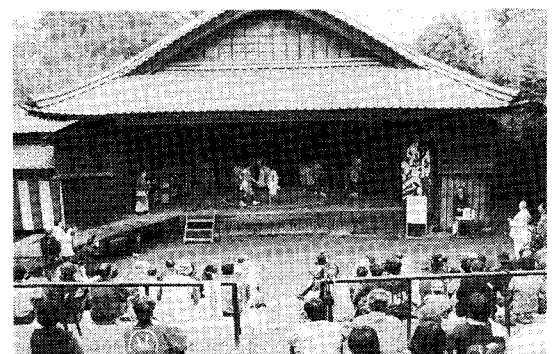
民俗芸能舞台公演 (11月3日)

「みのりの秋に獅子が舞う」

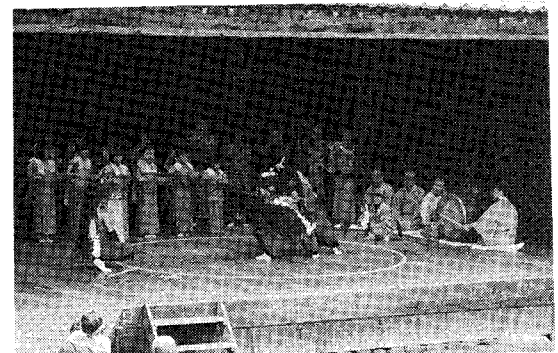
すげ 菅の獅子舞・はつやま 初山の獅子舞・こむかい 小向の獅子舞

神奈川県北部にはいくつかの一人立ち三頭獅子舞が伝えられており、川崎市には3つが残されています。

今回は、神奈川県民俗芸能保存協会、相模原市教育委員会との協力により、「第2回神奈川民俗芸能のつどい」として、第1部の10月22日に相模原市立あじさい会館で相模原市とその周辺の5つの一人立ち三頭獅子舞を、そして第2部の民家園では無料開園日の11月3日に船越の舞台で川崎市内の3つの一人立ち三頭獅子舞をおこないました。本園の公演では、3つの一人立ち三頭獅子舞が1つの会場に集まるといって、大変めずらしい機会です。各保存会の交流にもなったようです。各獅子舞は同系統ですがそれぞれに特徴があり、菅は勇壮で激しく舞い、初山は地に伏す



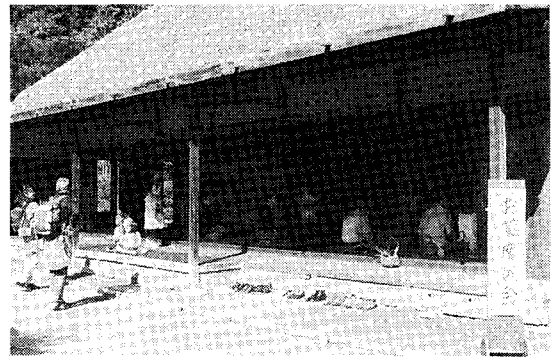
初山の獅子舞



小向の獅子舞

ような低い姿勢で舞い、小向はササラを持った少女が加わるなど県内でも異なった特徴があります。

民家園まつり期間中には民俗芸能公演の他にも「人形浄瑠璃公演」、「いけばな展示会」、「お茶席の会」、「実演会・丸太から柱ができるまで」、「琴の調べ」など、そして子ども向けのイベントとして「むかしあそび」のコーナーなども実施しました。さらに、毎年行われている民具作品展示会、そして民具製作の実演や伝統技術技法実演会などもおこなわれました。いずれの催し物も関係団体のみなさんに特段の協力をいただいたことにより実施することができたもので、民家園と川崎市の文化活動へのご支援を感謝いたします。



お茶席の会

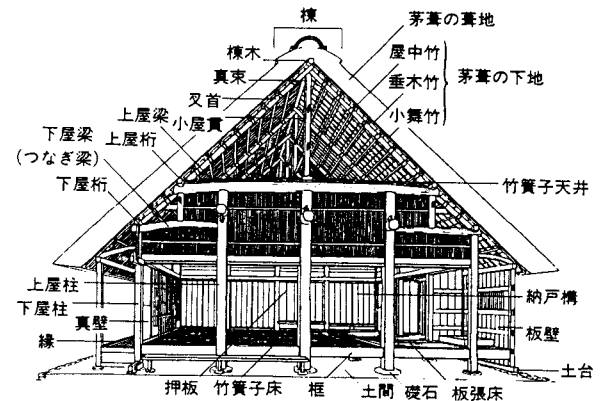


民具作品展示会

民家園講座 「古民家の話」

日本民家園の開園直後から民家の移築・復原にかかわり、すぐれた野外博物館に育てあげた野呂瀬職員による古民家講座です。

永年にわたり古民家と接してきた講師が、移築にまつわるエピソードや復原の苦労など普段は知ることのできない貴重な話を園内の見学もおこないながら古民家の特徴や見どころをわかりやすくお話しします。



重要文化財 北村家住宅断面透視図

日時 平成 13 年 2 月 10 日・17 日・24 日 (各土曜日・全 3 回)
13:00 ~ 15:00

会場 原家 (園内見学も実施します。)

講師 野呂瀬正男 (日本民家園職員)

受講料 1000 円

申込み 往復はがきで (1 人につき 1 枚) に、氏名、住所、電話番号、講座名「古民家の話」、この講座を何で知ったかを記入して郵送してください。

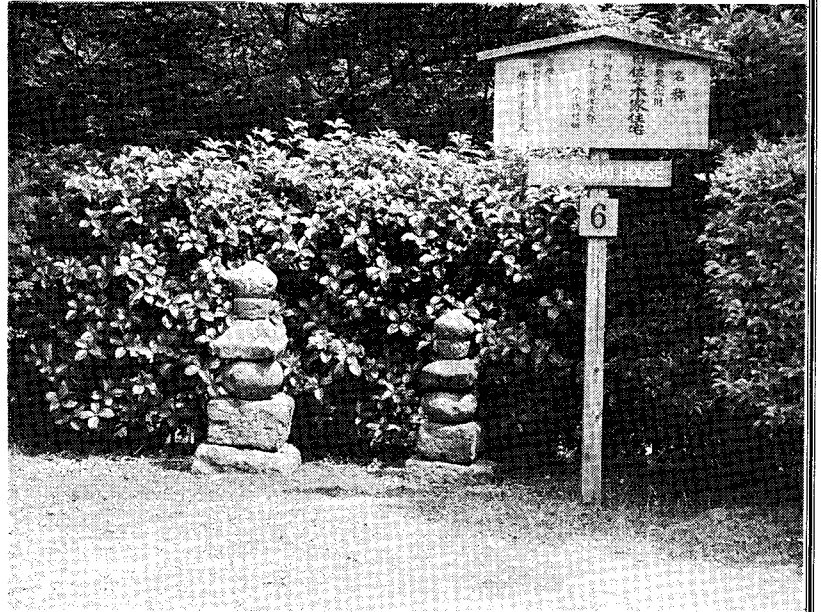
定員 40 人 (申込み多数の場合は抽選)

締切 平成 13 年 1 月 29 日 (月) 必着

日本民家園収蔵資料紹介 (3) ～ごりんとう塔 (旧佐々木家前)～

緑の木々が^{おしげ}生い茂り、^{しんざん}さながら深山の木々のトンネルのような園路を通り抜けると、目の前に堂々とそびえ立つ合掌造りの家々や長大で軒の高い農家が見えて来ます。そこは「信越の村」と呼ばれるエリアで、その中の旧佐々木家前に今回紹介する2基の^{ごりんとう}五輪塔があります。

この五輪塔は、長野県南佐久郡^{やち}八千穂村にある佐々木家の庭に置かれていたものですが、ご当主の佐々木嘉幸氏から「是非民家園に……」とのお申し出があり、昨年6月に収蔵されました(図版1)。



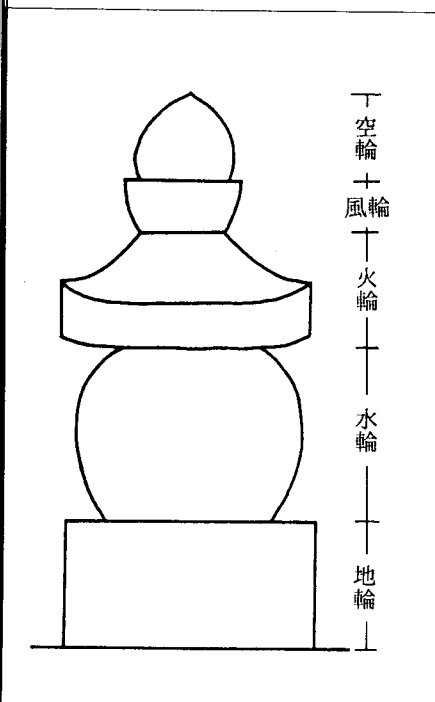
図版1 旧佐々木家前の五輪塔

五輪塔は、「五輪」という仏教の思想に基づいて造られたものです。「五輪」とは、宇宙は^ち地・^{すい}水・^か火・^{ふう}風・^{くう}空という五大元素から構成され、人間の体もこの五大元素で成り立っていると考える思想でした。この元素を^{たいげん}体現するものとして、下から方形の^{ちりん}地輪、球形の^{すいりん}水輪、三角形の^{かりん}火輪、半球の^{ふうりん}風輪、団形の^{くうりん}空輪という部分があり、それぞれ積み重ねて五輪塔となっています(図2)。平安時代頃から^{くようとう}供養塔や墓塔として造られ始め、中世には優品が多く生み出されました。

佐々木家の庭にあったこの五輪塔については、「八千穂村の^{いしむろ}石室という所からご先祖が運んできたもので、当初はもう少し庭にあった。石室は昔から五輪塔がたくさん掘り出される場所」と佐々木氏が話してくれた以外に、あまり詳しい事は分かりません。ただ、石室は戦国時代に合戦があった場所と言われており、その合戦の供養塔として五輪塔がたくさん造られたとも推測できます。供養塔である五輪塔がいかなる理由で造られて、それがどういう経路で佐々木家の庭に置かれるようになったか……。非常に興味深く、歴史の面白さを感じさせます。

この旧佐々木家前の2基の五輪塔以外にも、民家園ではいくつかの五輪塔を展示しています。古民家や古建築をご覧になりながら、園路の脇にひっそりと^{たなず}佇む五輪塔を探してみたいかがでしょうか。

(学芸員 栗田 一生)



図版2 五輪塔模式図